

シュッコンカスミソウ大輪系品種の蕾褐変障害軽減には 発蕾期以降のかん水管理が有効である

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花き－カスミソウ－水管理・水分制御

2 担当者名

大竹真紀

3 要旨

本県のシュッコンカスミソウの主力である大輪系品種は、特に春夏期の作型において蕾褐変(ブラスチング)の多発による品質や出荷量の低下が問題となっている。

そこで、従前品種では花房や茎を軟弱に生育させないために控えていた発蕾期以降のかん水管理が、大輪系品種の蕾褐変障害の軽減に有効であることを明らかにした。

- (1) 高温期の土壤水分が低い条件下では生育量や切り花のボリュームが減少した(図1)。
- (2) 発蕾期以降のかん水を行った場合、蕾褐変障害は、第一小花開花期までかん水を続けた区が最も軽減した(図2)。



図1 かん水の違いと切り花品質

左：1日間隔かん水 右：3日間隔かん水
かん水量 500ml/鉢/1回 摘心から採花まで実施
会津地域研究所ファイトロン(昼温/夜温 30/20°C)
品種「アルタイル MD」 1/2000a ワグネルポット栽培

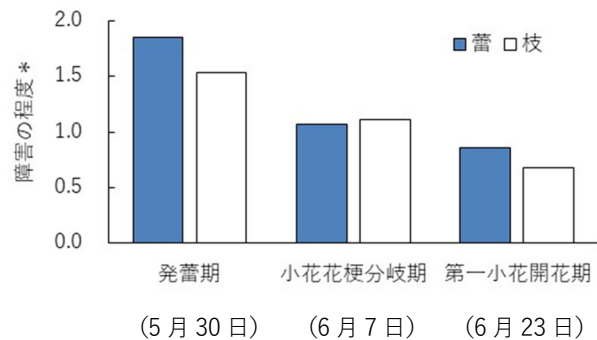


図2 据置株の最終かん水日と褐変障害

会津地域研究所 雨よけパイプハウス 品種「アルタイル MD」
平均開花日 6月24日
*切り花1本当たりの褐変障害を、0:なし 1:1割以下 2:3割以下 3:5割以下の発生で評価した。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成31～令和2年度
- (2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立
シュッコンカスミソウの安定生産技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成30年度普及成果「シュッコンカスミソウの夏秋期作型における高温対策技術」